各学科における各段階の到達目標

■文学部 日本語日本文学科 到達目標(国語)

履修 年次	年次 時期	教育の基礎的理解に関する科目等 大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目		
第 1	前期	①中高教職課程を履修する動機と目的を理解する。 ②教職並びに中高教職課程の特質と概要を理解する。	①中高教科「国語」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、国語学・国文学・漢文学・書道の各専門分野 より修得する。 ②中高教科「国語」の内容との関連性について、自主的 に探究する方法を身につける。		
年 次	後期	①公教育の理念・思想と制度・行政・経営システムを中心に、それらの基礎的知識及び技能を修得する。 ②学習者の心理と学習のメカニズム(発達と障害を含む) に関する基礎的知識を修得する。	①中高教科「国語」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、国語学・国文学・漢文学・書道の各専門分野 より修得する。 ②中高教科「国語」の内容との関連性について、自主的 に探究する方法を身につける。		
第 2	前期	①教育課程の基本構造と教育実践との関連性を理解する。 ②教職実践力の基礎となる教育の理念・目的・内容・方法・対象理解・制度・経営について、基礎知識を包括的に修得する。 ③人間の発達と障害に関する基礎的知識を修得する。	①中高教科「国語」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、国語学・国文学・漢文学の各専門分野より修 得する。 ②中高教科「国語」の内容との関連性について、自主的 に探究する方法を身につける。 ③中高国語科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模 擬授業を通して、授業実践力を修得する。		
年 次	後期	①道徳教育及び人権教育の目的・内容・方法等について、実践の観点から理解する。 ②情報通信技術(ICT)の活用と理論を理解する。 ③一人ひとりの生徒の人格を尊重した生徒指導や、生徒の意欲や適性を考慮した進路指導に必要な知識・技能を身につける。	①中高教科「国語」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、国語学・国文学・漢文学の各専門分野より修 得する。 ②中高教科「国語」の内容との関連性について、自主的 に探究する方法を身につける。 ③中高国語科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模 擬授業を通して、授業実践力を修得する。併せて、教 材分析や授業構想のための知識・技能を身につける。		
第 3	前期	践的な観点から理解する。	①中高教科「国語」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、国語学の分野より修得する。 ②中高教科「国語」の内容との関連性について、自主的 に探究する方法を身につける。 ③中高国語科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模 擬授業を通して、授業実践力を修得する。併せて、 中高教科「国語」の授業を構想し、実践し省察する一 連の授業実践研究の方法と態度を身につける。		
次	後期	①総合的な学習・探究及び特別活動の意義を理解し、その特質を踏まえた指導に必要な知識、及び技能を身につける。 ②教育実習の目的や計画・内容等を理解する。	①中高教科「国語」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、国語学の分野より修得する。 ②中高教科「国語」の内容との関連性について、自主的 に探究する方法を身につける。 ③中高国語科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模 擬授業を通して、授業実践力を修得する。併せて、 中高教科「国語」の授業を構想し、実践し省察する一 連の授業実践研究の方法と態度を身につける。		
第	前期	①教育に関する理念・思想・歴史を中心に、それらの基礎的知識を修得する。 ②教育実習生は、中高教育実習体験を通して、教職の使命感や責任感、実践力を修得し、教職に必要な資質能力を形成する。			
年 次	後期	①「教職実践演習(中高)」を通して、反省事項や今後 の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への 志を再確認する。			
	通 年	①教育実習の目的や計画・内容等につき理解を深めるとともに、特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法、学校学級経営等々に関する基礎的・実践的知識技能を修得する。 ②教育実習の事後指導を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志を確認する。			

■文学部 日本語日本文学科 到達目標(書道)

履修	 年次	教育の基礎的理解に関する科目等	
年次	時期	大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目
第 1	前期	①高校教職課程を履修する動機と目的を理解する。 ②教職並びに高校教職課程の特質と概要を理解する。	①高校教科「書道」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、書道・国文学・漢文学の各専門分野より修得 する。 ②高校教科「書道」の内容との関連性について、自主的 に探究する方法を身につける。
年次	後期	①公教育の理念・思想と制度・行政・経営システムを中心に、それらの基礎的知識及び技能を修得する。 ②学習者の心理と学習のメカニズム(発達と障害を含む) に関する基礎的知識を修得する。	①高校教科「書道」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、書道・国文学・漢文学の各専門分野より修得 する。 ②高校教科「書道」の内容との関連性について、自主的 に探究する方法を身につける。
第 2	前期	①教育課程の基本構造と教育実践との関連性を理解する。 ②教職実践力の基礎となる教育の理念・目的・内容・方法・対象理解・制度・経営について、基礎知識を包括的に修得する。 ③人間の発達と障害に関する基礎的知識を修得する。	①高校教科「書道」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、書道・国文学・漢文学の各専門分野より修得 する。 ②高校教科「書道」の内容との関連性について、自主的 に探究する方法を身につける。 ③高校書道科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模 擬授業を通して、授業実践力を修得する。
年次	後期	て、実践の観点から理解する。 ②情報通信技術 (ICT) の活用と理論を理解する。	①高校教科「書道」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、書道・国文学・漢文学の各専門分野より修得 する。 ②高校教科「書道」の内容との関連性について、自主的 に探究する方法を身につける。 ③高校書道科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模 擬授業を通して、授業実践力を修得する。併せて、教 材分析や授業構想のための知識・技能を身につける。
第 3	前期	践的な観点から理解する。	①高校教科「書道」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、書道史の分野より修得する。 ②高校教科「書道」の内容との関連性について、自主的 に探究する方法を身につける。
次	後期	①総合的な学習・探究及び特別活動の意義を理解し、 その特質を踏まえた指導に必要な知識、及び技能を 身につける。 ②教育実習の目的や計画・内容等を理解する。	①高校教科「書道」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、書論・鑑賞の分野より修得する。 ②高校教科「書道」の内容との関連性について、自主的 に探究する方法を身につける。
第4年次	前期	礎的知識を修得する。 ②教育実習生は、中高教育実習体験を通して、教職の 使命感や責任感、実践力を修得し、教職に必要な資 質能力を形成する。	①高校教科「書道」の内容との関連性について、自主的 に探究する方法を身につける。
	後期	①「教職実践演習(中高)」を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志を再確認する。	
	通年	①教育実習の目的や計画・内容等につき理解を深めるとともに、特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法、学校学級経営等々に関する基礎的・実践的知識技能を修得する。 ②教育実習の事後指導を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志を確認する。	

■文学部 歴史文化学科 到達目標(社会)

履修	年次	教育の基礎的理解に関する科目等	***********************************
年次	時期	大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目
第 1	前期	①高校教職課程を履修する動機と目的を理解する。 ②教職並びに高校教職課程の特質と概要を理解する。	①中学教科「社会」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、基礎教育科目・専門教育科目の学習を通じて 修得する。
年次	後期	①公教育の理念・思想と制度・行政・経営システムを中心に、それらの基礎的知識及び技能を修得する。 ②学習者の心理と学習のメカニズム(発達と障害を含む) に関する基礎的知識を修得する。	①中学教科「社会」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、基礎教育科目・専門教育科目の学習を通じて 修得する。
第 2	前期	①教育課程の基本構造と教育実践との関連性を理解する。 ②教職実践力の基礎となる教育の理念・目的・内容・方法・対象理解・制度・経営について、基礎知識を包括的に修得する。 ③人間の発達と障害に関する基礎的知識を修得する。	①中学教科「社会」に関わる原理と教科内容及びその指導方法についての基礎的知識と技能を修得する。併せて、中学教科「社会」を教授するに足る基礎的知識および技能を、専門教育科目群、とりわけ「歴史文化研究の基礎」科目群に配当する授業科目の学習を通して修得する。
次	後期	①道徳教育及び人権教育の目的・内容・方法等について、実践の観点から理解する。 ②情報通信技術(ICT)の活用と理論を理解する。 ③一人ひとりの生徒の人格を尊重した生徒指導や、生徒の意欲や適性を考慮した進路指導に必要な知識・技能を身につける。	①中学教科「社会」指導法の基礎知識を修得し、指導案の作成と模擬授業とを通して、授業実践力を身につける。併せて、中学教科「社会」を教授するに足る基礎的知識と技能を、専門教育科目群、とりわけ「歴史文化研究の基礎」「歴史文化の諸相」科目群に配当する授業科目の学習を通じて修得する。
第 3	前期	①カウンセリングを含め、教育相談の理論と方法を、実践的な観点から理解する。 ②特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法・学級経営等に関する基礎的・実践的知識と技能を修得する。	①これまで修得してきた歴史、地理、文化の専門領域における知識と中学教科「社会」の内容との関連性について、自主的に探究する方法を身につける。
次	後期	①総合的な学習・探究及び特別活動の意義を理解し、 その特質を踏まえた指導に必要な知識、及び技能を 身につける。 ②教育実習の目的や計画・内容等を理解する。	①これまで修得してきた歴史、地理、文化の専門領域における知識と中学教科「社会」の内容との関連性について、より深く自主的に探究する方法を身につける。
	前期	①教育に関する理念・思想・歴史を中心に、それらの基礎的知識を修得する。 ②教育実習生は、中高教育実習体験を通して、教職の使命感や責任感、実践力を修得し、教職に必要な資質能力を形成する。	①これまで蓄積してきた歴史、地理、文化の専門領域に おける知識と中学教科「社会」の内容とを有機的に関 連させ、質の高い教育実践を目指す意識と態度を身に つける。
第 4 年 次	後期	①「教職実践演習(中高)」を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志を再確認する。	①これまでに蓄積してきた歴史、地理、文化の専門領域 における知識と中学教科「社会」の内容とを有機的に 関連させ、質の高い教育を実現することのできる意識 と自信を確立する。
次	通年	①教育実習の目的や計画・内容等につき理解を深めるとともに、特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法、学校学級経営等々に関する基礎的・実践的知識技能を修得する。 ②教育実習の事後指導を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志を確認する。	

■文学部 歴史文化学科 到達目標(地理歴史)

履修	年次	教育の基礎的理解に関する科目等	************************************
年次	時期	大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目
第 1	前期	①高校教職課程を履修する動機と目的を理解する。 ②教職並びに高校教職課程の特質と概要を理解する。	①高校教科「地理歴史」を教授するに足る基礎的知識 及び技能を、基礎教育科目・専門教育科目の学習を通 じて修得する。
年次	後期	①公教育の理念・思想と制度・行政・経営システムを中心に、それらの基礎的知識及び技能を修得する。 ②学習者の心理と学習のメカニズム(発達と障害を含む) に関する基礎的知識を修得する。	①高校教科「地理歴史」を教授するに足る基礎的知識 及び技能を、基礎教育科目・専門教育科目の学習を通 じて修得する。
第 2	前期	①教育課程の基本構造と教育実践との関連性を理解する。 ②教職実践力の基礎となる教育の理念・目的・内容・方法・対象理解・制度・経営について、基礎知識を包括的に修得する。 ③人間の発達と障害に関する基礎的知識を修得する。	①高校教科「地理歴史」に関わる原理と教科内容の基礎的知識と技能を修得する。併せて、高校教科「地理歴史」を教授するに足る基礎的知識と技能を、専門教育科目群、とりわけ「歴史文化研究の基礎」科目群に配当する授業科目の学習を通して修得する。
次	後期	①道徳教育及び人権教育の目的・内容・方法等について、実践の観点から理解する。 ②情報通信技術(ICT)の活用と理論を理解する。 ③一人ひとりの生徒の人格を尊重した生徒指導や、生徒の意欲や適性を考慮した進路指導に必要な知識・技能を身につける。	①高校教科「地理歴史」指導法の基礎知識を修得し、 指導案の作成と模擬授業とを通して、授業実践力を身 につける。併せて、高校教科「地理歴史」を教授する に足る基礎的知識と技能を、専門教育科目群、とりわ け「歴史文化研究の基礎」「歴史文化の諸相」科目群 に配当する授業科目の学習を通じて修得する。
第 3	前期	①カウンセリングを含め、教育相談の理論と方法を、実践的な観点から理解する。 ②特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法・学級経営等に関する基礎的・実践的知識と技能を修得する。	①これまで修得してきた歴史、地理、文化の専門領域における知識と高校教科「地理歴史」の内容との関連性について、自主的に探究する方法を身につける。
次	後期	①総合的な学習・探究及び特別活動の意義を理解し、 その特質を踏まえた指導に必要な知識、及び技能を 身につける。 ②教育実習の目的や計画・内容等を理解する。	①これまで修得してきた歴史、地理、文化の専門領域における知識と高校教科「地理歴史」の内容との関連性について、より深く自主的に探究する方法を身につける。
	前期	①教育に関する理念・思想・歴史を中心に、それらの基礎的知識を修得する。 ②教育実習生は、中高教育実習体験を通して、教職の使命感や責任感、実践力を修得し、教職に必要な資質能力を形成する。	①これまで蓄積してきた歴史、地理、文化の専門領域における知識と高校教科「地理歴史」の内容とを有機的に関連させ、質の高い教育実践を目指す意識と態度を身につける。
第 4 年 次	後期	①「教職実践演習(中高)」を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志を再確認する。	①これまでに蓄積してきた歴史、地理、文化の専門領域 における知識と高校教科「地理歴史」の内容とを有機 的に関連させ、質の高い教育を実現することのできる 意識と自信を確立する。
次	通年	①教育実習の目的や計画・内容等につき理解を深めるとともに、特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法、学校学級経営等々に関する基礎的・実践的知識技能を修得する。 ②教育実習の事後指導を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志を確認する。	

■教育学部 教育学科 到達目標(幼、小、中、特支)

履修	年次	小学校教育コース	小学校・中学校教育コース	幼児教育・保育コース	国際教育コース
年次	時期	3 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5			
第 1	前期	て必要な知識・技能を身につける。 (2)「初期演習 I 」の履修を通して、本 (3)「教職入門」「教育原理」等の初年2	学の教育目標と大学での学びについて3 欠コース共通科目を履修することによっ	教養、及び英語、情報スキル、レポー 理解し、「主体性・論理性・実行力」の って、教育・保育に関する入門的な内容・ 容を理解することによって、教員・保	基礎を培う。 を理解する。
第 1 年 次	後期	て必要な知識・技能を身につける。 (2)「初期演習 II」の履修を通して、大 (3)「教育心理学総論」「教育行政学」; (4)各教科内容論の履修によって、小学	学での学び方、研究のための基礎・基 などの初年次コース共通科目を履修する 校教育に関する入門的かつ総合的な内タ	教養、及び英語、情報スキル、レポー本を身につける。 さことによって、教員・保育士にとって、 容の知識を身につけ、教育への理解を済 こへの進路について考え、コースを選択・	必要な基礎的知識を修得する。 Eめる。
第2年次	前期	ることによって、小学校教員として身につけておかなければならない小学校教育についての知識・理解を深める。 (2)「教育を深く知る」「特別なニーズと指導・支援の方法を深める」等の発展プログラムを主体的に履修	国語専修は、 (4)中学校国語科教員又は小中一貫校 の国語科教員として身につけてお かなければならない知識・理解 を、「日本語表現法」や「日本語	(1)「領域及び保育の指導法に関する 科目」及び「教育の基礎的理解に 関する科目」等を中心に、幼稚園 教員として身につけておかなけめ の知識・理解を得る。 (2)「幼児教育・深める」・「幼 小連携の基準のくる」等の発足こ とにより、幼稚園教員としての自 分の強みを身につける。 (3)小学校教育コースと同様。	小免取得の場合は、(1)~(3)小学校教育コースと同様。 小・中(英)取得の場合は、(1)~(5) 小学校・中学校教育コースと同様。 (4)あるいは(6)「共生社会論」や「シティズンシップ教育」等国際教育プログラムの「地域から学ぶ」を中心に履修することによって、国際教育のための基礎的知識・理解を得る。 (5)あるいは(7)「国際教育フィールドワークI」を履修することによって、西宮市内の小学校とMUSC近隣の小学校との連携に関わり、国際教育の実践力を身につけ、中学校英語科教員としての力を高める。
	後期	(1)「教科に関する専門的事項」の科目、「特別活動の指導法」等を教員として身につけておかないいて、かければの知識・理解を深める。 (2)「教育を深く知る」「指導力を高さいので、のので、のので、のので、のので、のので、のので、のので、のので、のので、	国語専修は、(4)中学校国語科教員又は小中一貫校の国語科教員として身につけておかなければならない知識・理解を、「学校教材としての文学」や「日本語文法」等の「教料に関する専門的事項」及び「特別活動の指導法」等の科目を履修することによって、深める。(5)前期に学んだ日本の言語・文学・文化に関する基礎的知識をもとに、日本語・日本文学・日本文化の諸問題をその知識体系において把握する力を身につける。英語専修は、	(1)「領域及び保育の指導法に関する 科目」及び「教育の基礎的理解に 関する科目」等を中心に、幼稚園 教員として身につけておかなけれ ばならない幼児教育・保育のため の知識・理解を深める。 (2)・(3)小学校教育コースと同様。	小免取得の場合は、(1)~(3)小学校教育コースと同様。 小・中(英)取得の場合は、(1)~(5) 小学校・中学校教育コースと同様。 (4)あるいは(6)積極的に「国際教育プログラム」の科目を履修することによって、国際教育に携わるための知識・理解を深める。 (5)あるいは(7)「国際教育フィールドワークⅡ」を履修することによって、各自の関心のある活動を進めていくための知識とスキル、問題解決能力を身につけ、中学校英語科教員としての実践的指導力も高める。

履修	年次				
年次	時期	小学校教育コース	小学校・中学校教育コース	幼児教育・保育コース	国際教育コース
第3年次	(1)各教科の教育法や「学級担任論」を学ぶことによって、小学校教員として身につけておかな身までない知識と実践的指導力を身まである。 (2)「教育実習指導事前事後指導」(小幼)」の科目における学構えとして、実習お事が構えとして、実習が構造が構造が構造が構造が構造が表現である」「特別ならればない。 (3)「指導力を高める」「特別なら、二、等の発展プログラムを主体的にのが発展プログラムを主体的にのが発展ではより、教員とにより、教育では、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一	(1)~(4)小学校教育コースと同様。 国語専修は (5)中学校国語科教員又は小中一貫校の国語科教員として身につけておかなければならない知識・理解を、「教科に関する専門、総合的かつ理論的に理解する。 (6)「中等国語科教育法 I・II」の履度を通過である。 (6)「中等国語科教育として失践的が、方面のといる。 (5)「中等国語科教育として失践的が、中一貫校における教育について失践的が、中一貫を変更がある。 英語専修は、 (5)中学校英語科教員又は小中一貫校おかなければならない知識・等の履修によって深め、総合的かつ理解を、「発言文学とり事項」等の履いたよって深め、に理解する。 (6)「中等英語科教育法 I・II」を履修中一貫校における教育について実践的指導力を身につける。	(1)「領域及び保育の指導法に関する科目」及び「教育の基準的理解に関する科目」ので、教育の基礎的正とにつけておいなければならない理論的によって、幼稚園では、総合的かつ理論的に学び、総合的かつ理論的に学び、総合的かつ理論的に関連する。 (2)「保育内容の指導法」の科目や「教育実習事前事後指導(幼り」の科目での学びを中心として、実践的指導力を高める」「幼児教育について深める」等の発展プレにから、幼稚園教員としての自分のを実践的指導力につなげる。 (4)小学校教育コースと同様。 (5)副資格である保育士課程科目に関する知識も身につけ、保育主課程の関しては、「保育実習」」によって実践的理解を深める。	小免取得の場合は、(1)~(4)小学校教育コースと同様。 小・中(英)取得の場合は、(1)~(6) 小学校・中学校教育コースと同様。 (5)あるいは(7)「グルーバル社会論」 「環境教育論」等の国際教育プログラムの科目を履修することによって、世界と地域について深く考察し、「国際教育フィールドワークⅢ」の履修によって、世界と地域をつなぐ実践力も身につけ、中学校英語科教員としての実践的指導力を高める。	
	後期	(1)各教科の教育法かと実践」等の推議を 推解指導の理論と実践」等の科目を教員 を見して、小学校教育を教員 としている。 (2)「教育実習 I (小幼)」においる ・少学校教育の現場での学でがして、小学校教育のの場とはでいる。 (3)「幼小連携の基礎をつくる」優終自分の発展プログラムをもに履のの発展プログラムを教員としてなが、 をもにより、的指してのでは、 をもにより、的指している等のが、 さらに発展了における学びを通し、 なの研究課題に学生は、小学的な が育で究への関心できられ、一学的な が育でののでのでは、、学的な 対育にないながより、 は、、学校な 教育にないながより、 は、、学校な 教育にないながより、 は、、学校な 教育にないながより、 は、、学校な 教育にないながより、 が教育にいながより、 が教育にいながより、 が教育にいながより、 が教育にないながより、 が教育に対いながより、 が教育に対いながなり、 が教育に対いながない、 が教育に対いながない、 ・実践的、 が教育に対いながない。 は、、学校な 教育に関する知 ・理解を深める。	(1)〜(4)小学校教育コースと同様。 国語専修は、 (5)「日本古典文学史」「日本近代文学専門的事項に関する事項」の科学校列の目を履修することによって、中学校国語科教員としての知識・理解をさらによって、中国語科教員としての知識・理解をさらによって、中国語科教員としての知識と実践的指導力を身にい中一貫を関係することによって、英語専修は、 (5)「英語文学と世界」「外国語科教員として必要な知識と実践的指導力を身につける。 英語専修は、 (5)「英語文学と世界」「外国語科科員としての知識・理解と技能をさらによって、英語科教員への中等科教育とは小中一貫解教育としていて、英語科教員としての知識・理解と技能をさらに深める。 (6)「中等英語科教育法Ⅲ・IV」の科語科教員又は小中一貫校英語科教員として必要な知識・理解と技能をさらに深める。 (6)「中等英語科教育法Ⅲ・IV」の科語科教員又は小中一貫校英語科教員又は小中一貫校英語科教育又は小中一貫校英語科教員として必要な知識と実践的指導力を身につける。	(1)「領域に関する専門的事項」科目の履修によって、保育内容についての深い理解と実践的指導力を身につける。 (2)「教育実習 I (幼小)」において、幼児教育の現場での学びで通して、実践的指導力を身につける。 (3)発展プログラムを主体的に履修することにより、幼稚園教員としての自分の強みを実践的指導力につなげ、さらに発展させる。 (4)小学校教育コースと同様。 (5)幼児教育についての理論的・実践的な理解を活かしながら、副資格である保育士課程科目に関する知識・理解を深める。	小免取得の場合は、(1)~(4)小学校教育コースと同様。 小・中(英)取得の場合は、(1)~(6) 小学校・中学校教育コースと同様。 (7)「国際教育フィールドワークIV」 の履修を通して、実際に世界と地域をつなぐ経験をすることによって、国際教育に関する実践力を高め、中学校英語科教員としての実践的指導力も高める。
第4年次	前期	(1)前年度の小学校教育実習における学びを握り返りながら、「総合的な学習の時間の指導法」等の科力を通して、さらに実践的指導力を身につける。 (2)教育実習で見いだした自らの課題について、「教職総合実践」等等することによって、課題に取りることによって、課題に取りることによって、課題に取り、実践的指導力を高める。 (3)「卒業研究」において、問題解決能力を高める。 (4)副免許(幼あるいは特支)を取得する学生は、その実践的指導力を事め、小学校教育との相違や関連性についても理解を深める。 (1)「指導力を高める」等の発展プロ	(1)~(3)小学校教育コースと同様。 (4)「教育実習事前事後指導(中)」及び「教育実習(中)」に取り組み、前年度の小学校教育実習における学びと関連づけながら、実践的指導力を身につける。 (5)「教育実習(中)」を通して見いだした自らの課題について考察を深め、課題を解決する能力を高める。	振り返りながら、「教職総合実践 (幼)」等の科目を通して、さ 実践的指導力を身につける。 (2)保育土課程に関しては、保章を含め で理解を深め、実践的指導力を も通して、幼稚園との相違を含高 のる。 (3)教育実習で見いだした自らの課題 について、発展プログラムを主践 的に履修することによって、組む。 (4)小学校教育コース(3)と同様。 (5)幼稚園教育についての理論的・副 致的な理解を活かしながら、 (5)幼稚園教育についての理論、・ 異的な理解を活かしながら、 の は、 の は、 の は、 の は、 の は、 の は、 の は、 の	小免取得の場合は、(1)~(3)小学校教育コースと同様。 小・中(英)取得の場合は、(1)~(5) 小学校・中学校教育コースと同様。
· 次	後期	(1)「指導力を高める」等の発展プログラムを、主体的に選択関をすることにより、教育に関係もまでの知識をより、教育に関することにより、教育に関連なができるためのに、これまでの学びを振り課題に取り教育とから、(3)「卒業研究」に扱い、教育でや場所の研究を表する。(4)副免許を取得する理論的・副免許を取得する理論的・副免許を取得する理論的・副免許を取得する理解を活かしながら、副見ずるいは特支の対象育に活かしながら、副免許を取得する理論的・副免許を取得する理解を活かしながら、副免許する理解を活かしながら、記機計算力も身につける。	(1)~(3)小学校教育コースと同様。	(1)「幼児教育について深める」「幼小連携の基礎をつくる」等の発展プログラムを履修することにより、これまでの知識理解をよりにないでいる。 (2)選択科目である「教育実習II(小)」を履修する場合は、公社を限論であるともに、それを実践的指導力につなげる。 (3)「保育・教職実践演習(幼)」を通して、これまでの学びを保育して、知趣園及び小学校におけるより、「保育・教職実践演習(幼)」を通して、は、知趣園教員あるいは保育となるのに必要な資質の保育者となるのに必要な資質を保育者となるのに必要な資質組む。 (4)小学校教育コース(3)と同様。	(1)~(3)小学校教育コースと同様。

■健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科 到達目標(保健体育)

上		ツ科学部 健康・スポーツ科学科 到達日標(保健)	件月/
履修 年次	年次 時期	教育の基礎的理解に関する科目等 大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目
第	前期	①教育に関する理念・思想・歴史を中心に、それらの基礎的知識を修得する。 ②中高教職課程を履修する動機と目的を理解する。 ③教職並びに中高教職課程の特質と概要を理解する。 ④特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法・学級経営等に関する基礎的・実践的知識と技能を修得する。	①中高教科「保健体育」を教授するに足る基礎的知識及び技能を、「スポーツの文化・歴史」・「運動生理学」・「スイミング」・「バスケットボール」・「ダンスI」・「柔道」の各分野から修得し、教科を指導するにあたり専門的知識や技能を探求する方法を身につける。
1 年 次	後期	①公教育の理念・思想と制度・行政・経営システムを中心に、それらの基礎的知識及び技能を修得する。②学習者の心理と学習のメカニズム(発達と障害を含む)に関する基礎的知識を修得する。③情報通信技術(ICT)の活用と理論を理解する。	①中高教科「保健体育」を教授するに足る基礎的知識及び技能を、「スポーツ運動学」・「トラックアンドフィールド」・「体操」・「ハンドボール」・「ダンスⅡ」・「救急処置演習」の各分野から修得し、教科を指導するにあたり専門知識や技能を探求する方法を身につける。 ②「体育原理」によって体育の理念並びに体育に関する思想に関して中高教科「保健体育」を教授するに足る基礎的知識を修得する。 ③中高保健体育科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模擬授業を通して、授業実践力を修得する。
第 2	前期	①教育課程の基本構造と教育実践との関連性を理解する。 ②教職実践力の基礎となる教育の理念・目的・内容・方法・対象理解・制度・経営について、基礎知識を包括的に修得する。 ③カウンセリングを含め、教育相談の理論と方法を、実践的な観点から理解する。	①中高教科「保健体育」を教授するに足る基礎的知識及び技能を、「器械運動」・「バレーボール」・「ダンスⅢ」の各分野から修得し、教科を指導するにあたり専門的知識や技能を探求する方法を身につける。②スポーツ指導をするにあたっての経営管理の基礎的知識を修得する。 ③学校における衛生及び保健指導についての基礎的知識を修得する。 ④中高保健体育科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模擬授業を通して、授業実践力を修得する。併せて、教材分析や授業構想のための知識・技能を身につける。
安 次	後期	①人間の発達と障害に関する基礎的知識を修得する。 ②道徳教育及び人権教育の目的・内容・方法等について、実践の観点から理解する。 ③総合的な学習・探究及び特別活動の意義を理解し、その特質を踏まえた指導に必要な知識、及び技能を身につける。 ④一人一人の生徒の人格を尊重した生徒指導や、生徒の意欲や適性を考慮した進路指導に必要な知識・技能を身につける。 ⑤教育実習の目的や計画・内容等を理解する。	修得し、教科を指導するにあたり専門的知識や技能 を探求する方法を身につける。
	前期	①教育実習の目的や計画・内容等につき理解を深めるとともに、特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法、学校学級経営等々に関する基礎的・実践的知識技能を修得する。 ②教育実習生は、中高教育実習体験を通して、教職の使命感や責任感、実践力を修得し、教職に必要な資質能力を形成する。	及び技能を、「スポーツ社会学」から修得し、教科 を指導するにあたり専門的知識や技能を探求する方 法を身につける。
第 3 年 次	後期	①公教育の理念・思想と制度・行政・経営システムを中心に、それらの基礎的知識及び技能を修得する。 ②総合的な学習及び特別活動の意義を理解し、その特質を踏まえた指導に必要な知識、及び技能を身につける。 ③教育実習の目的や計画・内容等を理解する。	及び技能を、「公衆衛生学」から修得し、教科を指
	通 年	①教育実習の目的や計画・内容等につき理解を深めるとともに、特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法、学校学級経営等々に関する基礎的・実践的知識技能を修得する。 ②教育実習の事後指導を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志を確認する。	
第 4	前期		①中高教科「保健体育」を教授するに足る基礎的知識 及び技能を、「卓球」から修得し、教科を指導する にあたり専門的知識や技能を探求する方法を身につ ける。
年次	後期	①「教職実践演習(中高)」を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志を再確認する。	①中高教科「保健体育」を教授するに足る基礎的知識 及び技能を、「バドミントン」から修得し、教科を 指導するにあたり専門的知識や技能を探求する方法 を身につける。

■健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科 到達目標(保健体育)

履修		ツ科字部 スホーツマインメント字科 到達日信 (*)	WINDLIT 137
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等 大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目
第	前期	①中高教職課程を履修する動機と目的を理解する。 ②教職並びに中高教職課程の特質と概要を理解する。	①中高教科「保健体育」を教授するに足る基礎的知識及び技能を、「スポーツの文化・歴史」・「運動生理学」・「救急処置演習」・「スイミング」・「体操」・「ダンスI」の各分野から修得し、教科を指導するにあたり専門的知識や技能を探求する方法を身につける。 ②スポーツ実施上の心理的特性について基本的知識を修得し、教科を指導するにあたり専門的知識や技能を探求する方法を身につける。
年 次	後期	①公教育の理念・思想と制度・行政・経営システムを中心に、それらの基礎的知識及び技能を修得する。 ②学習者の心理と学習のメカニズム(発達と障害を含む) に関する基礎的知識を修得する。	①中高教科「保健体育」を教授するに足る基礎的知識及び技能を、「トラックアンドフィールド」・「器械運動」・「バレーボール」・「バスケットボール」・「ダンスII」の各分野から修得し、教科を指導するにあたり専門知識や技能を探求する方法を身につける。 ②「体育原理」によって体育の理念並びに体育に関する思想に関して中高教科「保健体育」を教授するに足る基礎的知識を修得する。 ③中高保健体育科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模擬授業を通して、授業実践力を修得する。
第 2 年	前期	①教育課程の基本構造と教育実践との関連性を理解する。 ②教職実践力の基礎となる教育の理念・目的・内容・方法・対象理解・制度・経営について、基礎知識を包括的に修得する。 ③人間の発達と障害に関する基礎的知識を修得する。	 ①中高教科「保健体育」を教授するに足る基礎的知識及び技能を、「ハンドボール」・「ダンスⅢ」の各分野から修得し、教科を指導するにあたり専門的知識や技能を探求する方法を身につける。 ②スポーツ指導をするにあたっての経営管理の基礎的知識を修得する。 ③学校における衛生及び保健指導についての基礎的知識を修得する。 ④中高保健体育科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模擬授業を通して、授業実践力を修得する。併せて、教材分析や授業構想のための知識・技能を身につける。
次	後期	て、実践の観点から理解する。 ②情報通信技術(ICT)の活用と理論を理解する。 ③一人ひとりの生徒の人格を尊重した生徒指導や、生徒	①中高教科「保健体育」を教授するに足る基礎的知識 及び技能を、「剣道」・「スポーツ社会学」から修得し、 教科を指導するにあたり専門的知識や技能を探求する 方法を身につける。 ②中高保健体育科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模擬授業を通して、授業実践力を修得する。併せて、中高教科「保健体育」の授業を構想・実践・ 省察する一連の授業実践研究の方法と態度を身につける。
第 3	前期	①カウンセリングを含め、教育相談の理論と方法を、実践的な観点から理解する。 ②特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法・学級経営等に関する基礎的・実践的知識と技能を修得する。	①中高保健体育科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模擬授業を通して、授業実践力を修得する。併せて、中高教科「保健体育」の授業を構想・実践・省察する一連の授業実践研究の方法と態度を身につける。
年次	後期	①総合的な学習・探究及び特別活動の意義を理解し、 その特質を踏まえた指導に必要な知識、及び技能を 身につける。 ②教育実習の目的や計画・内容等を理解する。	①中高教科「保健体育」を教授するに足る基礎的知識 及び技能を、「柔道」・「公衆衛生学」から修得し、 教科を指導するにあたり専門的知識や技能を探求す る方法を身につける。 ②中高教科「保健体育」の授業を構想・実践・省察す る一連の授業実践研究の方法と態度を身につける。
	前期	①教育に関する理念・思想・歴史を中心に、それらの基礎的知識を修得する。 ②教育実習生は、中高教育実習体験を通して、教職の使命感や責任感、実践力を修得し、教職に必要な資質能力を形成する。	
第 4 年 次	後期	①「教職実践演習(中高)」を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志を再確認する。	①中高教科「保健体育」を教授するに足る基礎的知識及び技能を、「バドミントン」から修得し、教科を指導するにあたり専門的知識や技能を探求する方法を身につける。
	通年	①教育実習の目的や計画・内容等につき理解を深めると ともに、特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法、学校学級経営等々に関する基礎的・ 実践的知識技能を修得する。 ②教育実習の事後指導を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志を確認する。	

■生活環境学部 生活環境学科 到達目標(家庭)

履修	年次	教育の基礎的理解に関する科目等	#LTV T = 0.4LTV = 16.0EV . EE . TV
年次	時期	大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目
第 1	前期	①中高教職課程を履修する動機と目的を理解する。 ②教職並びに中高教職課程の特質と概要を理解する。	①中高教科「家庭」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、家庭経営学・被服学・住居学の各専門分野 より修得する。 ②中高教科「家庭」の内容との関連性について、自主 的に探究する方法を身につける。
年次	後期	①公教育の理念・思想と制度・行政・経営システムを中心に、それらの基礎的知識及び技能を修得する。 ②学習者の心理と学習のメカニズム(発達と障害を含む)に関する基礎的知識を修得する。	①中高教科「家庭」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、家庭経営学・被服学・住居学の各専門分野 より修得する。 ②中高教科「家庭」の内容との関連性について、自主 的に探究する方法を身につける。
第	前期	①教育課程の基本構造と教育実践との関連性を理解する。 ②教職実践力の基礎となる教育の理念・目的・内容・ 方法・対象理解・制度・経営について、基礎知識を 包括的に修得する。 ③人間の発達と障害に関する基礎的知識を修得する。	①中高教科「家庭」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、被服学・住居学の各分野より修得する。 ②中高教科「家庭」の内容との関連性について、自主 的に探究する方法を身につける。 ③中高家庭科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模 擬授業を通して、授業実践力を修得する。
2 年 次	後期	①道徳教育及び人権教育の目的・内容・方法等について、実践の観点から理解する。 ②情報通信技術(ICT)の活用と理論を理解する。 ③一人ひとりの生徒の人格を尊重した生徒指導や、生徒の意欲や適性を考慮した進路指導に必要な知識・技能を身につける。	①中高教科「家庭」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、被服学の分野より修得する。 ②中高教科「家庭」の内容との関連性について、自主 的に探究する方法を身につける。 ③中高家庭科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模 擬授業を通して、授業実践力を修得する。併せて、 教材分析や授業構想のための知識・技能を身につけ る。
第	前期	①カウンセリングを含め、教育相談の理論と方法を、 実践的な観点から理解する。 ②特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授 業方法・学級経営等に関する基礎的・実践的知識と 技能を修得する。	①中高家庭科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模 擬授業を通して、授業実践力を修得する。併せて、 中高教科「家庭」の授業を構想し、実践し省察する 一連の授業実践研究の方法と態度を身につける。
3 年 次	後期	①総合的な学習・探究及び特別活動の意義を理解し、 その特質を踏まえた指導に必要な知識、及び技能を 身につける。 ②教育実習の目的や計画・内容等を理解する。	①中高教科「家庭」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、食物学・保育学の分野より修得する。 ②中高教科「家庭」の内容との関連性について、自主 的に探究する方法を身につける。 ③中高家庭科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模 擬授業を通して、授業実践力を修得する。併せて、 中高教科「家庭」の授業を構想し、実践し省察する 一連の授業実践研究の方法と態度を身につける。
第 4 年 次	前期	礎的知識を修得する。	①中高教科「家庭」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、食物学の分野より修得する。 ②中高教科「家庭」の内容との関連性について、自主 的に探究する方法を身につける。
	後期	①「教職実践演習(中高)」を通して、反省事項や今後 の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への 志を再確認する。	
	通年	①教育実習の目的や計画・内容等につき理解を深めるとともに、特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法、学校学級経営等々に関する基礎的・実践的知識技能を修得する。 ②教育実習の事後指導を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志を確認する。	

■社会情報学部 社会情報学科 到達目標(情報)

履修	年次	教育の基礎的理解に関する科目等	까지 T. 7°까지 ~ 10'쓸 나 는 테 근 ㅋ 지 ロ
年次	時期	大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目
第 1	前期	①高校教職課程を履修する動機と目的を理解する。 ②教職並びに高校教職課程の特質と概要を理解する。	①高校教科「情報」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、情報社会(職業に関する内容を含む。)・情 報倫理、コンピュータ・情報処理、情報通信ネット ワークの分野より修得する。
年次	後期	①公教育の理念・思想と制度・行政・経営システムを中心に、それらの基礎的知識及び技能を修得する。 ②学習者の心理と学習のメカニズム(発達と障害を含む)に関する基礎的知識を修得する。	①高校教科「情報」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、コンピュータ・情報処理、情報システム、 マルチメディア表現・マルテメディア技術の各専門 分野より修得する。
第 2	前期	①教育課程の基本構造と教育実践との関連性を理解する。 ②教職実践力の基礎となる教育の理念・目的・内容・ 方法・対象理解・制度・経営について、基礎知識を 包括的に修得する。 ③人間の発達と障害に関する基礎的知識を修得する。	①高校教科「情報」に関わる原理と教科内容及び、その指導法に関わる基礎的知識と技能を習得する。併せて高校教科「情報」を教授するに足る基礎的知識及び技能を、情報社会(職業に関する内容を含む。)・情報倫理、コンピュータ・情報処理、情報通信ネットワークの各専門分野より修得する。
年 次	後期	①道徳教育及び人権教育の目的・内容・方法等について、実践の観点から理解する。 ②情報通信技術(ICT)の活用と理論を理解する。 ③一人ひとりの生徒の人格を尊重した生徒指導や、生徒の意欲や適性を考慮した進路指導に必要な知識・技能を身につける。	①高校教科「情報」指導法の基礎知識について学び、 指導案の作成・模擬授業を通して、授業実践力を修 得する。併せて高校教科「情報」を教授するに足る 基礎的知識及び技能を、情報社会(職業に関する内 容を含む。)・情報倫理、コンピュータ・情報処理、 情報システムの各専門分野より修得する。
第 3	前期	①カウンセリングを含め、教育相談の理論と方法を、 実践的な観点から理解する。 ②特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授 業方法・学級経営等に関する基礎的・実践的知識と 技能を修得する。	①高校教科「情報」の内容との関連性について、自主 的に探究する方法を身につける。
次	後期	①総合的な学習・探究及び特別活動の意義を理解し、 その特質を踏まえた指導に必要な知識、及び技能を 身につける。 ②教育実習の目的や計画・内容等を理解する。	①高校教科「情報」の内容との関連性について、自主 的に探究する方法を身につける。
第	前期	①教育に関する理念・思想・歴史を中心に、それらの基礎的知識を修得する。 ②教育実習生は、中高教育実習体験を通して、教職の使命感や責任感、実践力を修得し、教職に必要な資質能力を形成する。	①高校教科「情報」の内容との関連性について、自主 的に探究する方法を身につける。
# 4 年 次	後期	①「教職実践演習(中高)」を通して、反省事項や今後 の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への 志を再確認する。	①高校教科「情報」の内容との関連性について、自主 的に探究する方法を身につける。
	通年	①教育実習の目的や計画・内容等につき理解を深めるとともに、特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法、学校学級経営等々に関する基礎的・実践的知識技能を修得する。 ②教育実習の事後指導を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志を確認する。	

■音楽学部 演奏学科 到達目標(音楽)

E 1/2	左	*L * _ ++ T+ // TM / T	
履修 年次	年次 時期	教育の基礎的理解に関する科目等 大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目
第 1	前期	①中高教職課程を履修する動機と目的を理解する。 ②教職並びに中高教職課程の特質と概要を理解する。	①中高教科「音楽」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、和声法より修得する。 ②中高教科「音楽」の内容との関連性について、自主 的に探究する方法を身につける。
年次	後期	①公教育の理念・思想と制度・行政・経営システムを中心に、それらの基礎的知識及び技能を修得する。 ②学習者の心理と学習のメカニズム(発達と障害を含む)に関する基礎的知識を修得する。	①中高教科「音楽」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、ソルフェージュより修得する。 ②中高教科「音楽」の内容との関連性について、自主 的に探究する方法を身につける。
第	前期	①教育課程の基本構造と教育実践との関連性を理解する。 ②教職実践力の基礎となる教育の理念・目的・内容・ 方法・対象理解・制度・経営について、基礎知識を 包括的に修得する。 ③人間の発達と障害に関する基礎的知識を修得する。	①中高教科「音楽」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、声楽・器楽・指揮法の各専門分野より修得 する。 ②中高教科「音楽」の内容との関連性について、自主 的に探究する方法を身につける。 ③中高音楽科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模 擬授業を通して、授業実践力を修得する。
2 年 次	後期	①道徳教育及び人権教育の目的・内容・方法等について、実践の観点から理解する。 ②情報通信技術(ICT)の活用と理論を理解する。 ③一人ひとりの生徒の人格を尊重した生徒指導や、生徒の意欲や適性を考慮した進路指導に必要な知識・技能を身につける。	的に探究する方法を身につける。 ③中高音楽科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模擬 授業を通して、授業実践力を修得する。併せて、教材 分析や授業構想のための知識・技能を身につける。
	通 年		①中高教科「音楽」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、伴奏法・音楽史より修得する。
第 3 年 次	前期	①カウンセリングを含め、教育相談の理論と方法を、 実践的な観点から理解する。 ②特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授 業方法・学級経営等に関する基礎的・実践的知識と 技能を修得する。	①中高教科「音楽」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、声楽・器楽の各専門分野より修得し、合奏 を通して協調性を育む。 ②中高教科「音楽」の内容との関連性について、自主 的に探究する方法を身につける。 ③中高音楽科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模 擬授業を通して、授業実践力を修得する。併せて、 中高教科「音楽」の授業を構想し、実践し省察する 一連の授業実践研究の方法と態度を身につける。
	後期	①総合的な学習・探究及び特別活動の意義を理解し、 その特質を踏まえた指導に必要な知識、及び技能を 身につける。 ②教育実習の目的や計画・内容等を理解する。	①中高教科「音楽」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、声楽・器楽の各専門分野より修得し、より 深く理解する。 ②中高教科「音楽」の内容との関連性について、自主 的に探究する方法を身につける。 ③中高音楽科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模 擬授業を通して、授業実践力を修得する。併せて、 中高教科「音楽」の授業を構想し、実践し省察する 一連の授業実践研究の方法と態度を身につける。
	通年		①中高教科「音楽」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、合唱・邦楽より修得し、協調性を育み、日 本の伝統的な音楽も学ぶ。
第 4 年 次	前期	礎的知識を修得する。	①中高教科「音楽」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、編曲を含む作曲法より身につける。 ②中高教科「音楽」の内容との関連性について、自主 的に探究する方法を身につける。
	後期	①「教職実践演習(中高)」を通して、反省事項や今後 の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への 志を再確認する。	
	通年	①教育実習の目的や計画・内容等につき理解を深めるとともに、特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法、学校学級経営等々に関する基礎的・実践的知識技能を修得する。②教育実習の事後指導を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志を確認する。	

■音楽学部 応用音楽学科 到達目標(音楽)

屋修	■日来子の 100円日来子内 15世日 18 (日来) 履修年次 教育の基礎的理解に関する科目等 せるひまっぱがいっぱだい。 思してひに			
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等 大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	
第 1	前期	①中高教職課程を履修する動機と目的を理解する。 ②教職並びに中高教職課程の特質と概要を理解する。	①中高教科「音楽」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、声楽実技・ピアノ実技・和声法より修得す る。 ②中高教科「音楽」の内容との関連性について、自主 的に探究する方法を身につける。	
年次	後期	①公教育の理念・思想と制度・行政・経営システムを中心に、それらの基礎的知識及び技能を修得する。 ②学習者の心理と学習のメカニズム(発達と障害を含む)に関する基礎的知識を修得する。	技能を、ソルフェージュ・声楽実技・ピアノ実技よ	
第	前期	①教育課程の基本構造と教育実践との関連性を理解する。 ②教職実践力の基礎となる教育の理念・目的・内容・ 方法・対象理解・制度・経営について、基礎知識を 包括的に修得する。 ③人間の発達と障害に関する基礎的知識を修得する。	①中高教科「音楽」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、指揮法より修得する。 ②中高教科「音楽」の内容との関連性について、自主 的に探究する方法を身につける。 ③中高音楽科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模 擬授業を通して、授業実践力を修得する。	
2 年 次	後期	①道徳教育及び人権教育の目的・内容・方法等について、実践の観点から理解する。 ②情報通信技術(ICT)の活用と理論を理解する。 ③一人ひとりの生徒の人格を尊重した生徒指導や、生徒の意欲や適性を考慮した進路指導に必要な知識・技能を身につける。	技能を、指揮法より修得し、理解を深める。 ②中高教科「音楽」の内容との関連性について、自主	
	通年		①中高教科「音楽」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、器楽・音楽史より修得する。	
第 3	前期	①カウンセリングを含め、教育相談の理論と方法を、 実践的な観点から理解する。 ②特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授 業方法・学級経営等に関する基礎的・実践的知識と 技能を修得する。		
次	後期	①総合的な学習・探究及び特別活動の意義を理解し、 その特質を踏まえた指導に必要な知識、及び技能を 身につける。 ②教育実習の目的や計画・内容等を理解する。	①中高教科「音楽」の内容との関連性について、自主的に探究する方法を身につける。 ②中高音楽科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模擬授業を通して、授業実践力を修得する。併せて、中高教科「音楽」の授業を構想し、実践し省察する一連の授業実践研究の方法と態度を身につける。	
	通 年		①中高教科「音楽」を教授するに足る基礎的知識及び 技能を、合唱より修得し、協調性を育む。	
	前期	礎的知識を修得する。 ②教育実習生は、中高教育実習体験を通して、教職の 使命感や責任感、実践力を修得し、教職に必要な資 質能力を形成する。		
第 4 年 次	後期	の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への 志を再確認する。	り深く理解する。 ②中高教科「音楽」の内容との関連性について、自主 的に探究する方法を身につける。	
	通年	①教育実習の目的や計画・内容等につき理解を深めるとともに、特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法、学校学級経営等々に関する基礎的・実践的知識技能を修得する。 ②教育実習の事後指導を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志を確認する。		

■薬学部 健康生命薬科学科 到達目標(理科)

履修年次		教育の基礎的理解に関する科目等	**************************************	
年次	時期	大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	
第 1	前期	①中高教職課程を履修する動機と目的を理解する。 ②教職並びに中高教職課程の特質と概要を理解する。	①中高教科「理科」に関する専門的知識(化学・生物学)を修得する。 ②中高教科「理科」の内容との関連性について、自主的に探究する方法を身につける。	
年次	後期	①公教育の理念・思想と制度・行政・経営システムを中心に、それらの基礎的知識及び技能を修得する。 ②学習者の心理と学習のメカニズム(発達と障害を含む)に関する基礎的知識を修得する。	①中高教科「理科」に関する専門的知識(物理学・化学・生物学)を修得する。 ②中高教科「理科」の内容との関連性について、自主的に探究する方法を身につける。	
第 2 年 次	前期	①教育課程の基本構造と教育実践との関連性を理解する。 ②教職実践力の基礎となる教育の理念・目的・内容・方法・対象理解・制度・経営について、基礎知識を包括的に修得する。 ③人間の発達と障害に関する基礎的知識を修得する。	①中高教科「理科」に関する専門的知識(化学・生物学)を修得する。 ②中高教科「理科」の内容との関連性について、自主的に探究する方法を身につける。 ③中高理科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模擬授業を通して、授業実践力を修得する。	
	後期	①道徳教育及び人権教育の目的・内容・方法等について、実践の観点から理解する。 ②情報通信技術 (ICT) の活用と理論を理解する。 ③一人ひとりの生徒の人格を尊重した生徒指導や、生徒の意欲や適性を考慮した進路指導に必要な知識・技能を身につける。	①中高教科「理科」に関する専門的知識(生物学・地学)と技能(実験法)を修得する。②中高教科「理科」の内容との関連性について、自主的に探究する方法を身につける。③中高理科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模擬授業を通して、授業実践力を修得する。併せて、教材分析や授業構想のための知識・技術を身につける。	
第 3 年 次	前期	①カウンセリングを含め、教育相談の理論と方法を、 実践的な観点から理解する。 ②特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、 授業方法・学級経営等に関する基礎的・実践的知 識と技能を修得する。	①中高教科「理科」に関する専門的知識(生物学)と技能(実験法)を修得する。 ②中高教科「理科」の内容との関連性について、自主的に探究する方法を身につける。 ③中高理科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模擬授業を通して、授業実践力を修得する。併せて、中高教科「理科」の授業を構想し、実践し省察する一連の授業実践研究の方法と態度を身につける。	
	後期	①総合的な学習・探究及び特別活動の意義を理解し、その特質を踏まえた指導に必要な知識、及び技能を身につける。 ②教育実習の目的や計画・内容等を理解する。	①中高理科指導法の基礎を学び、指導案の作成・模 擬授業を通して、授業実践力を修得する。併せて、 中高教科「理科」の授業を構想し、実践し省察す る一連の授業実践研究の方法と態度を身につける。	
第 4 年 次	前期	①教育に関する理念・思想・歴史を中心に、それらの基礎的知識を修得する。 ②教育実習生は、中高教育実習体験を通して、教職の使命感や責任感、実践力を修得し、教職に必要な資質能力を形成する。		
	後期	①「教職実践演習(中高)」を通して、反省事項や今後 の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への 志を再確認する。		
	通 年	①教育実習の目的や計画・内容等につき理解を深めるとともに、特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法、学校学級経営等々に関する基礎的・実践的知識技能を修得する。②教育実習の事後指導を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志を確認する。		

■食物栄養科学部 食物栄養学科 到達目標(栄養教諭)

履修年次		北方。せなり田471-184・18	兴美になっ地方に 明十ヶ利ロ
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等	栄養に係る教育に関する科目
第 1	前期	①栄養教諭教職課程を履修する動機と目的を理解する。 ②栄養教諭の特質と概要を理解する。	
年次	後期	①公教育の理念・思想と制度・行政・経営システムを中心に、それらの基礎的知識及び技能を修得する。 ②栄養教諭として求められる教職実践力の土台となる教育心理学について、基礎知識を修得する。	
第 2	前期	①教育課程の基本構造と教育実践との関連性を理解する。 ②教職実践力の基礎となる教育の理念・目的・内容・ 方法・対象理解・制度・経営について、基礎知識を 包括的に修得する。	
年 次	後期	①道徳教育の理論と実践について基礎的知識及び技能を修得する。 ②情報通信技術(ICT)の活用と理論を理解する。 ③生徒指導の理論と方法について、教職に関する基礎的知識及び技能を修得する。	①栄養教諭として必要な専門的知識及び技能を、「学校栄養教育・指導論 I 」より修得する。
	前期	①特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法・学級経営等に関する基礎的・実践的知識と技能を修得する。 ②教育相談の理論及び方法を中心に、栄養教諭教職に関する基礎的知識及び技能を修得する。	①栄養教諭として必要な専門的知識及び技能を、「学校栄養教育・指導論II」より修得する。 ②上記①と栄養教育実習(特に授業及び栄養指導)とのかかわりを考慮し、それらの実践上の意義及び具体的内容を自主的に探究する方法を身につける。
第 3 年	後期	①総合的な学習・探究及び特別活動の意義を理解し、 その特質を踏まえた指導に必要な知識及び技能を身 につける。 ②教育実習生は、栄養教育実習体験を通して、教職の 使命感や責任感、実践力を修得し、教職に必要な資 質能力を形成する。	
次	通年	①教育実習の目的や計画・内容等につき理解を深めるとともに、特別な配慮を要する生徒への対応方法をも含め、授業方法、学校学級経営等々に関する基礎的・実践的知識技能を修得する。 ②教育実習の事後指導を通して、反省事項や今後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職への志を確認する。	
第 4 年 次	後期	①「教職実践演習(栄教)」を通して、反省事項や今 後の研究課題につき、明らかにするとともに、教職 への志を再確認する。	